

令和5年度事業報告書

社会福祉法人 やまどり福祉会

目 次

I. 決算監査、理事会並びに評議員会	・・・P. 1
1, 決算監査	
2, 理事会	
3, 評議員会	
II. 岩手県及び金ケ崎町主催会議等への参加並びに地域交流	・・・P. 2
III. 特別養護老人ホームあすなろの取り組み課題に対する反省	・・・P. 3
各ユニットの年間目標に対する実績と反省（評価）	・・・P. 5
各職種の年間目標に対する実績と反省（評価）	・・・P. 7
1, 介護主任・副主任	
2, 生活相談員・介護支援専門員	・・・P. 7
3, 看護師	・・・P. 8
4, 管理栄養士	・・・P. 8
VI. グループホームぽっかぽっかの家の取り組み課題に対する反省	・・・P. 9
※各委員会（あすなろ・ぽっかぽっかの家）	・・・P. 11
V. 地域密着型特別養護老人ホームすずの里取り組みに対する反省	・・・P. 14
各ユニットの年間目標に対する実績と反省（評価）	・・・P. 15
各職種の年間目標に対する実績と反省（評価）	・・・P. 18
1. 介護主任	
2. 生活相談員・介護支援専門員	・・・P. 19
3. 看護師	・・・P. 20
※各委員会（すずの里）	・・・P. 20

I. 決算監査、理事会並びに評議員会

1. 決算監査

開催年月日	出席者数	監査内容
令和5年5月12日	監事 2名 理事 2名	・現金監査 ・決算監査

2. 理事会

開催年月日	出席者数	決議事項
令和5年5月25日 第111回	監事2名 理事6名	・基本財産の担保提供について ・令和4年度事業報告及び決算の承認について ・令和5年度第1次補正予算について ・任期満了に伴う次期役員候補者の推薦について ・評議員会の招集について
令和5年6月9日 第112回	理事7名 監事2名	・理事長の互選について
令和6年3月11日 第113回	理事5名 監事2名	・令和5年度第2次補正予算について ・令和6年度事業計画及び収支予算書の同意について ・評議員会の招集について

3. 評議員会

開催年月日	出席者数	決議事項
令和5年6月9日 (令和5年度第1回)	評議員7名 監事2名	・基本財産の担保提供について ・令和4年度事業報告及び決算の承認について ・令和5年度第1次補正予算について ・任期満了に伴う役員の選任について
令和6年3月29日 (令和5年度第2回)	評議員7名 監事2名	・令和5年度第2次補正予算について ・令和6年度事業計画及び収支予算書の承認について

II. 岩手県及び金ケ崎町主催会議等への参加状況並びに地域交流

1. ①岩手県（県南広域振興局）

年 月 日	会 場	実 施 内 容
令和5年7月19日	Zoom	集団指導
令和5年9月13日	あすなろ	施設監査及び実地指導

②岩手県（県社会福祉協議会）

年 月 日	会 場	実 施 内 容
令和5年6月2日	いしどりや荘	高齢協県南ブロック役員会
令和6年1月22日	花巻市交流会館	研修会
令和6年2月16日	いしどりや荘	高齢協県南ブロック役員会
令和6年3月6日	Zoom	経営協総会
令和6年3月14日	花巻市交流会館	高齢協県南ブロック総会
令和6年3月15日	Zoom	高齢協総会

2. 金ケ崎町

年 月 日	会 場	実 施 内 容
7/21、9/15、1/19、 3/15	金ケ崎町保健センター	地域包括ケア会議
12/20、1/17、2/21	金ケ崎町保健センター	金ケ崎町介護保険事業計画策定委員会
令和6年2月9日	金ケ崎町社会福祉協議会	金ケ崎町法人連絡会
令和6年2月29日	金ケ崎町役場	福祉審議会
令和6年3月27日	金ケ崎町保健センター	金ケ崎町在宅医療介護連携推進会議

3. 北上市

年 月 日	会 場	実 施 内 容
令和5年4月26日	シティプラザ北上	北上市社会福祉法人連絡会幹事会

4. いわてユニットケア研究会

年 月 日	会 場	実 施 内 容
令和5年5月23日	Zoom	役員会総会
5/31、9/11、12/14 3/4	Zoom	研修委員会
令和5年6月19日	Zoom	研修担当者交流会
令和5年9月25日	アイーナ	第29回研修会
令和5年12月4日	Zoom	第30回研修会

5. 日本ユニットケア推進センター

年 月 日	会 場	実 施 内 容
令和5年4月25日	東京八重洲	実地研修施設関係者連絡会
6/2、10/2	Zoom	東北ブロック会議
令和5年11月2日	アイーナ	東北ブロック研修会
令和5年11月9日	大阪	実地研修施設関係者連絡会
令和5年11月21,22日	マリオス	ユニットリーダー研修座学

6. 各種団体等

年 月 日	会 場	実 施 内 容
令和5年12月22日 (いきいき岩手支援財団)	アイーナ	岩手県高齢者権利擁護看護実務者研修(講師派遣)

Ⅲ. 特別養護老人ホームあすなろの取り組み課題に対する反省

- (1) 令和5年度 平均稼働率 98.6 %
- (2) 令和6年度3月末現在の入居状況(定員30人)

男性	3名	女性	27名	計	30名
----	----	----	-----	---	-----
- (3) 入居人数 4名 退所人数 5名
- (4) 平均介護度 4.1

目標1 入居者の尊厳ある生活を保障するため、ユニットケア(個別ケア)の理解と実践を通し、サービスの質の向上や環境改善に取り組みます。

【実績・反省事項】

新型コロナウイルスが5類となり、感染対策及び感染状況を見ながらではあるが、ご家族様とのお部屋での面会を再開した。マスク着用、15分以内として、特に問題なく過ごすことができた。ご家族様からも喜んでいただけた。それとともに、六原幼稚園、第一小学校、大沢桃子さんなど少しずつではあるが、ボランティアの受け入れも再開した。しかし、感染状況を鑑みるあまり、ご家族や近隣の行事への参加や、イベントの案内などはできなかった。また、外食はできなかったが、以前よりも外出の機会を増やすことができた。

ご家族様には、ご都合が合えばケアカンファレンスに参加していただき、一緒に入居者の暮らしを支えるようお願いしている。今後も継続していく。

9月に振興局の施設監査・実地指導、10月に(一社)日本ユニットケア推進センターの更新調査(ユニットリーダー研修実地研修施設)があり、どちらも大きな指摘もなく更新することができた。ユニットリーダー研修の受け入れは、岩手、秋田、宮城、山形から 名、サービスの質の担保のためにも、今後も継続していく。学生の実習も採用につながることもあり、できるだけ受け入れていく方針。

目標2 コロナ情勢を鑑み、地域包括ケアの担い手、地域住民の一員として、地域住民と関係機関と連携を図り、地域課題への活動を積極的に行います。地域の方が参加でき、ともに活動できる場を提供します。

〔実績・反省事項〕

前項で述べたように、六原幼稚園、第一小学校、大沢桃子さんなど少しずつではあるが、ボランティアの受け入れも再開した。しかし、感染状況を鑑みるあまり、ご家族や近隣への行事への参加や、イベントの案内などはできなかった。併せてサークル活動の講師等もコロナ以前にお願いしていた時から5年経過しており、次年度の課題となっている。そのため、昨年同様、職員とともにお花クラブ、習字クラブ、クッキングサークル、体操クラブ、歌声クラブ等で楽しんだ。

目標3 基本理念に基づいた職員像、業務の標準化、職員教育及び研修プログラムの確立により、職員が仕事を通じて成長と達成を実感できる職場環境を目指します。法人職員として意識の統一と自己成長につなげる職員教育を実施します。

〔実績・反省事項〕

施設内 OFF-JT

- 4月 理念塾・倫理・法令遵守・接遇
- 5月 新任研修
食中毒予防研修
- 6月 個別ケア（ユニットケア）
- 7月 24 シート・記録
- 8月 リスクマネジメント・身体拘束廃止研修
- 9月 虐待防止（アンガーマネジメント）研修
- 10月 認知症研修
- 11月 排泄ケア・ポジショニング研修
感染症研修
- 12月 虐待防止研修
- 1月 看取り・健康管理・緊急時の対応
- 2月 認知症研修
- 3月 リスクマネジメント・身体拘束廃止研修
新任研修

施設外 OFF-JT

- 9月 いわてユニットケア研究会 研修会（集合）
- 10月 医療的ケア研修（集合）
- 11月 ユニットケア東北ブロック フォローアップ研修（集合）
エルダー、メンター制度導入研修(zoom)
ユニットリーダー研修（集合）
ユニットケア看護師研修(zoom)
ユニットケア栄養士研修(zoom)
- 12月 いわてユニットケア研究会 研修会(zoom)
- 1月 高齢協県南ブロック 研修会（集合）

施設内 OFF-JT は、例年通り実施できた。施設外研修に関しても、集合、zoom 問わず参加できた。24シートやOJT チェックリストによる職員教育や、職員手帳を使った研修を実施できた。人事管理システムを導入したものの、考課制度の内容を整備できず休止状態となってしまった。考課制度の見直しと内容の精査が今後の課題。

目標4 コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント体制を運用することで入居者や職員が安心・安全の中で暮らし、働ける環境を目指します。

〔実績・反省事項〕

ヒヤリハット、発見シート等を分析し、入居者一人ひとりのリスクマネジメントを強化し、大きな事故もなく過ごすことができた。職員に関しても怪我なく、就業することができた。新型コロナウイルスが5類となったが、県内でも時折クラスターが発生していた。あすなろに至っては、「ウイルスを持ち込まない」を徹底し、コロナ禍においてクラスターになることなく安全に過ごすことができた。

※ 各ユニットの年間目標に対する実績と反省（評価）

南ユニット

〔年間目標〕 ・入居者一人ひとりの気持ちに寄り添い、自分らしい暮らしが送れるよう一番近くで支えていく。

〔実績・反省事項〕

「ユニットケアの理解と実践」

- ・理念塾に参加し法人理念の理解を深め、入居者を尊重しながら各職員ケアにあたった。
- ・ユニットミーティングで他職種を交えて意見を出し合い、入居者の状態に合わせたケアを考え、実践した。
- ・出来ていないことはどうすればできるようになるか、改善策をミーティングで考え実践した。改善できたこともあれば、うまくいかず何度も意見を出し合うこともあった。
- ・疑問や改善点等、意見は日々の中でもよく出ていたが、職員によって偏りはあったので、疑問や改善点が出た際は、他のユニット職員に意見を求めるようにした。居室担当や委員会の携わり方にも差があったので、助言していかなければならなかったと感じた。
- ・24Hシートの更新はどの職員も頑張っていた。

「チームケア」

- ・声のトーンや表情、言葉遣いに気を付け安心できるように声をかけた。今後も入居者の表情や仕草などからも何を伝えたいのかを感じ取り、より良いコミュニケーションをする。
- ・相手の話しを最後まで聞き、お互いに考えをおしつけないよう気を付けた。今後もいろいろな考えがある事を理解し、相手の伝えたい事をしっかり受け止め、コミュニケーション能力を向上させる。
- ・ユニットケアを意識しながら取り組んでいたが、声のかけ方や、時間を意識したケアなど、職員主体の部分もあったように思う。今後は、より入居者が主体になるように取り組んでいきたい。

- ・情報の共有は出来ていないことも多くあったように感じた。言葉が不足で情報にずれが生じ、その日の勤務者だけで情報を共有していることがあった。みんなで共有できるよう記録に残すことをしっかり行っていき、ケアの統一をしていく。

西ユニット

- 【年間目標】 ・入居者が楽しく安心して暮らすことが出来るよう、理念に基づきユニットケアを実践していく。

〔実績・反省事項〕

- ・定期的に入居者の食べたい物を聞いて、一緒に作ったり食べたりすることができたのでとても良かった。次は食べ物だけでなくやりたいことなども聞き、できることも実行していきたい。
- ・ミーティングの時間にユニットケアについての確認を行い、ユニット職員みんなで取り組み実行してきた。ただ、実施研修再調査が終わると、確認する機会も少なくなってきたため、来年度も継続し取り組んでいきたい。
- ・統一したケアができるように、職員で声を出し合ってミーティング時などに確認しあうことができた。ただ 24 シートを活用しての情報の共有などはまだまだ改善していかなければならないところもあるため、活用できるようにリーダー、サブ中心に行っていきたい。
- ・更新についてはできている入居者とできていない入居者があり、来年度からは更新の時間、または更新できているか確認する時間などを実際に作って、同じことを繰り返さない様に改善していきたい。
- ・各担当の仕事はそれぞれの担当には声をかけ出来ているところ、できていないところの確認をしてきた。来年度、新人職員や新しく担当を持つ職員もいるのでしっかりと教えていきたい。

東ユニット

- 【年間目標】 ・ユニットケアについて理解を深め、自分たちのケアがそれに沿ったものが都度見直し改善していく。

〔実績・反省事項〕

- ・ミーティング時に、入居者の状態の変化を確認し、対応策をつと考え実施した。
- ・勉強会は、数回実施し更新調査後は継続が難しかった。
- ・職員の意見や考えを尊重するようにし、情報を共有するようにしたが、もれた時があったので、口頭だけではなく日報やメモでも残し、しっかり全員が情報を共有できるようにしていく。
- ・業務に余裕がない時は、一部職員同士、態度や表情にでてしまうことがあった。
- ・24 シートの更新は、時間はかかったがカンファレンス後できるだけ早く更新をするようにした。
- ・暮らしづりがわかる記録を心掛けたが、時間が経つと忘れてしまうこともあり、内容がうすくなってしまふこともあった。
- ・面会時は、入居者の状態を報告し、家族ともコミュニケーションを取るようにした。
- ・ミーティングや日々の業務で、それぞれが意見を出し合い、話し合うことができていた。
- ・お互いに余裕のない中でも、できていない仕事をフォローしあっていた。

※ 各職種の年間目標に対する実績と反省（評価）

1、介護主任・副主任

「重点目標」

- ・「ここで暮らして良かった」と感じてもらえるよう、個別ケアの指導と実践を行いながら質を高める。
- ・職員が発信しやすい環境づくりをし、思いを形にする。

〔実績・反省事項〕

今年度よりリーダーとサブが共通認識を持つことで、ユニット内の状態把握や、課題解決に対し取り組めるようにサブ会議を開催した。開催する事により、リーダーとサブの認識の確認や、どのように取り組んでいくか話し合うことが出来た。また、新任・現任職員も施設内研修を通して施設の方針や考え方等を理解する事ができ、入居者の暮らしを支えながら支援できた。人手が足りず慌ただしくなる時もあったが、職員一人一人が意識し取り組む姿勢見られたので、来年度は職員も充足するのでしっかり取り組んでいく。

入居者が望むその人らしい暮らしができるよう、一人ひとりの情報収集を行い、記録を残しながら、24シートに反映させることが出来た。また、所定の場所での施設内面会が出来るようになり、家族と職員が直接話せ機会が増えて来ているので、今後も状況を見ながら、家族とかかわりを持てる機会を増やしていきたい。

育成に関しては、職員が前向きな考えを持っているので、今後も続けてもらい、もっともっと入居者の暮らしを豊かにし、笑顔が増え「ここに来てよかった」と思ってもらえるよう職員一丸となり取り組んでいきたい。

2. 生活相談員・介護支援専門員

生活相談員

「重点目標」

- ・空床を出さぬよう申し込み件数を増やす。
- ・質の良いユニットケア施設であることを関係各所にアピールし、他施設との差別化を図る。

〔実績・反省事項〕

・入居者や家族からの要望は、面会関係、外出関係、日々のケアに関する相談が多く、面会、外出に関しては感染委員をはじめ、施設内で協議し、できる限りの対応ができた。日々のケアについては、都度ユニットに相談して見直しをした。

・面会時などに、家族が気兼ねなく相談ができる関係性が築けているが、なかなか面会に来られない家族に関してはコミュニケーションを図れず、意向をくみ取りづらいのが現状である。来年度は家族との関わりを増やす取り組みの中で、どの家族ともまんべんなくコミュニケーションを取れるようにしていきたい。

- ・関連施設や、機関との関係性構築はまだまだ浅いため、来年度も引き続き取り組んでいく。
- ・申し込み件数を確保するため、北上市・奥州市の居宅ケアマネや、回復期の病院に営業をかけているが、特に北上市の居宅ケアマネからの反応が良く、申し込み繋がっている。施設の評判

については、営業をしている中でも、申し込みに来所する家族からも、ユニットケアへの取り組みや、個別ケアへの熱心な取り組みから、“とても良くしてくれるところ”との評価が多く、単純に特養の申し込みではなく、“ぜひあすなろに入居させたい”との声も増えてきている。来年度も、関係各所への営業を継続する。

・地域との関わりについては、感染症対策に重きを置き、小学校との交流授業、保育園の訪問のみとなった。来年度は、教育機関とのつながりや、近隣住民とのつながりを深めていけるよう取り組みんでいく。

介護支援専門員

「重点目標」

- ・入居者の暮らしの継続を目指し、施設理念と個別性を重視したケアプランの作成に努める
- ・看取り期や看取り前期でのエンディングノートの内容を実施し、入居者と家族の願を叶える

〔実績・反省事項〕

- ・理念を念頭に、入居者と家族の思いと想いをケアプランに反映すべく、1月からケアカンファレンスへの家族参加を再開した。家族から直接話を聞けることで、入居者や家族の意向が深く理解できるようになり、より個別性の高いケアプランの作成ができています。
- ・エンディングノートの様式作成はしていないが、看取り期に入る前から、入居者の思いや、家族が入居者にしてあげたいことを聞き出して、ケアプランに反映させている。
- ・来年度もまごころを込めた取り組みをし、さらに個別性の高いケアプランを作成し、入居者の笑顔と心豊かな生活を実現する。

3. 看護師

(あすなろ 及び ぽっかぽっかの家)

「重点目標」

- ・施設における感染防止に努める
- ・入居者及びスタッフの体調管理
- ・24シートの充実

〔実績・反省事項〕

- ・職員や家族のコロナ感染などはあったが、施設への感染症の持ち込みなく入居者の感染防止に努められた。
- ・ユニットスタッフと情報共有し体調管理、早期対応をすることが出来た。

4. 管理栄養士

(あすなろ ・ すずの里)

「重点目標」

- ・食を通じた楽しみを入居者・職員・ご家族と共有し共に潤いある生活を送る支援を行う。
- ・最期まで口から食べる事を支援するため職員と家族が連携を図りながら双方で協力し実践する。

〔実績・反省事項〕

- ・食べたいものを食べ元気に過ごして頂くことをモットーに食の個別ケアの推進に取り組んだ。訴えのある方は食べたいものを常備し対応した。訴えの少ない方や訴えることができないかたは

家族の協力を得て、食べ進みの良いものを常備し対応した。

- ・食事のイベントは、通年を通して実施しているお楽しみランチに加えて不定期ではあるがクッキングサークル、居酒屋、お茶会を開いた。
- ・食中毒予防の為に施設内研修を行った。
- ・カンファレンスにご家族が参加できるようになり、情報の共有に努めた。
- ・次年度は家族交流、地域交流の機会を増やし、あすなろ、すずの里を知っていただけるようなイベントを行ってゆきたい。

IV.グループホームぽっかぽっかの家の取り組み課題に対する反省

- (1) 令和5年度 平均稼働率 99.5 %
- (2) 令和6年度3月末現在の入居状況(定員9人)
男性 2名 女性 7名 計 9名
- (3) 入居人数 2名 退所人数 2名
- (4) 平均介護度 2.4

目標 1 個別ケアの理解を深め、自立支援を念頭に、「その人らしい生活」ができ、居心地の良い暮らしの実現に向けサービスを実践に取り組む。

〔実績・反省事項〕

理念塾研修に参加した。おりにふれ話し合いを行い、年度末には、代表より 24 シートの個別指導に合わせ個別面談を行い、法人の理念、方針についての理解や実践するよう取り組みが出来た。

1. 支援計画

利用者様についての情報収集、把握が不十分で個別ケアの理解が職員によりばらつきがあった。職員個々のサービスに関しては十分でも、一貫したサービスについては不十分だった。話し合いを行い具体的に明らかにすることで、気づきや振り返りにつながった。24 シートの充実を図りながら今後さらに取り組みを強化する。

「認知症を理解し、言動や対応で利用者様の意志や人格を尊重、配慮する」について、おおむねできていた。しかし、至らないところもあり、改善を要する。

2. 健康管理

利用者様、職員のコロナ感染、インフルエンザの罹患がありましたが最小限にとどめることが出来た。日頃より感染予防、体調管理について注意喚起した。その他大きく体調を崩す利用者様はなかった。

3. 食事支援

食事やおやつ、飲み物の好みについて把握が不十分で、好みに合わせた対応、工夫が足りなかったが、徐々に改善が見られた。

4. 入浴支援

体力低下が顕著な方を筆頭に、本人の意思も考慮し、個々の状況や体調などに合わせた対応をした。

5. 排泄支援

入所間もない利用者様、10 ヶ月ほど経過した利用者様の排便状況が安定せず、主治医、

看護師に報告相談しながら生活改善等行った結果、年度末には改善が見られた。新規入所者様の夜間の尿側をし、パットの使用種類の検討を行った。

大きな声で排便の有無確認やトイレ内での手洗い時、トイレ誘導時の声掛けをすることが見られプライバシーの配慮に欠けた事例も見られた。今後声のトーンや言い方の工夫、誘導方法をプライバシーに配慮した対応を徹底する。

6. レク活動

天候状況を見ながら、屋外への散歩や外出等、本人の意志や体調等に合わせレクの工夫をした。活動量アップや維持に努めた。家族との面会や、外出、外泊もあった。

目標2 地域住民、地域関係機関と連携し高齢者や障害者、認知症の方の理解を深め生活支援が必要な人々の暮らしを考え、支える場として活動し地域へ発信できるグループホームを目指す。

〔実績・反省事項〕

コロナの5類に移行後、徐々に地域行事への参加や面会方法、家族との外出、外泊など十分ではなかったがコロナ禍よりは出来た。

運営推進会議等を通し交流を深め、情報収集し、意見を頂いた。金ヶ崎町の介護相談員の訪所の再開がされ、月1度傾聴していただいている。

ぽっか便りは利用者様の普段の様子を、職員が月替わりでコメントや写真を載せ、毎月提供した。家族様には好評で、施設に対する理解や安心感につながりご家族との良好な関係の構築に一役かっている。職員にとっても利用者様への理解につながり、家族様との関係性を意識することにつながっている。

目標3 基本理念に基づいた職員像、業務の標準化、職員教育及び研修プログラムの確立により、職員が仕事を通じて成長と達成を実感できる職場環境を目指します。法人職員として意識の統一と自己成長につなげる職員教育を実施します。

〔実績・反省事項〕

施設内研修や外部研修にできるだけ参加する。職員会議等で勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んだ。外部研修に積極的に参加し資格を取得した。6年度はさらに充実したい。

目標4 コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント体制を運用することで入居者や職員が安心・安全の中で暮らし、働ける環境を目指します。

〔実績・反省事項〕

法人の職員としての自覚や法令遵守などについて周知するように研修に参加した。

不明な点は話し合いを行い、代表からも職員に向けて研修を行った。

リスクマネジメントに関しては、転倒事故が5件あるも大きなけがはなかった。

できるだけ、ヒヤリハット、発見シートを活用し、リスクを減らしていきたい。

※ 各種委員会

(あすなろ 及び ぽっかぽっかの家)

1. 事故防止・身体拘束廃止委員会・見守り機器等活用委員会

活動目標（目的）

- ・安心・安全に入居者一人ひとりが縛りのないその人らしく暮らせるように努める。
- ・身体拘束ゼロの実現に向け施設全体で取り組む。

〔実績・反省事項〕

- ・ヒヤリハット・発見シートを提出し、委員会やミーティングで分析し、情報共有する事でリスクを最小限にし、事故を防ぐ事ができた。今後も、どんな些細な気付きも、情報共有し、自由な暮らしを送ってもらえるよう環境を整えていく。

2. 食事支援チーム

活動目標（目的）

- ・美味しい、楽しい(嬉しい)食事が出来るよう努める。
- ・最期まで口から食べられるよう努める。

〔実績・反省事項〕

- ・毎月のお楽しみランチや行事食、ユニット内では入居者が食べたいものをリサーチし、提供できていた。
- ・食事がなかなか食べられない入居者に対して、他職種とも連携し食べたい物や食べられそうな物を考え、家族にも協力してもらいながら提供できた。
- ・入居者と一緒に食事ができるようになったので、今後一緒に楽しみながら食事ができる雰囲気づくりをユニット職員と他職種で取り組んでいかなければならない。

3. 排泄・褥瘡予防ケアチーム

活動目標（目的）

- ・羞恥心に配慮し、体調不良時、身体状況の変化に伴い尿測を実施し個々の現状に合った用品と排泄支援を行い、褥瘡防止に努める。

〔実績・反省事項〕

羞恥心に配慮した声かけや誘導を行えた。また、赤み等を早期発見して職員間で共有・対策をとることで悪化を防ぐことができた。尿測に関しては尿量の変化や体調の変化に合わせて取り組んだが、タイミングが遅い場合もあり、同じ時間でのデータ収集になってしまったので、今後は時間を変えてデータをとるようにし、入居者が不快な思いをしないように取り組んでいく。

4. 入浴チーム

活動目標（目的）

- ・個々のこだわりや好みを大切にしながら、人体状況に合わせた入浴方法を検討し、気持ち良く、安心してもらえるよう努める。

〔実績・反省事項〕

- ・入居者から話を聞き、入浴時の様子を観察して情報収集し、それぞれの入浴のこだわりや好みを確認することができた。また、家族から話を聞いて得る情報もあったので良かった。ただ、

まだ情報を得ることができそうな入居者もいるため、今後も続けて行っていきたい。入居者の状況に合わせた対応はその都度、または早めに検討し入浴方法を変えていくことができたため、安心して入っていただけたと感じる。入浴剤を入れるなどの計画を立てていた月があったにもかかわらず、実行までいかないことがあったため、来年度に活かしていきたい。

5. 24シート・記録チーム

活動目標（目的）

- ・24シートを活用し、入居者に合わせた職員配置になる様務める。
- ・暮らしづくりが分かる記録とケアプラン等と連動している記録になるよう努める。

〔実績・反省事項〕

- ・入居者の暮らしの目安とし、24シートの活用で他ユニットへの対応の際も、入居者の意向に添えた支援が出来た。好み等、現状と違っていただけもあるので、速やかに更新できるよう、委員を始め居室担当者へ声をかけていく。以前よりも、暮らしや様子が分かる記録になった。今後も、暮らしづくりが分かる記録になる様、委員会で話し合いながら、施設全体に浸透させていくよう努める。

6. ユニットケア推進委員会

活動目標（目的）

- ・入居者一人ひとりの暮らしを大切に、「ここで暮らしてよかった」と思ってもらえるよう努める。

〔実績・反省事項〕

- ・今年度は、更新調査もあり「ユニットケア」「個別ケア」について、リーダー、サブリーダーを中心に考え方や根拠の確認を行い、入居者の思いにより添えているか、確認することができた。来年度はさらに力を入れ、職員一人一人が、入居者の暮らしを大切に考えられるよう勉強会や日々の暮らしの中で強化していく。

7. 感染対策委員会

活動目標（目的）

- ・特養・グループホーム内での感染症の発生を出来る限り防ぎ、入居者に安心して生活を送っていただく。

〔実績・反省事項〕

- ・施設内感染を持ち込まれることなく生活することが出来た。
- ・毎月感染対策委員会を開催し面会の対応、その他の対応について話し合い施設内で情報共有することが出来た。

8. 吸引等安全対策委員会

活動目標（目的）

- ・吸引等の特定行為を適切、安全に行う為の実施・指導。

〔実績・反省事項〕

- ・施設内研修を行うことが出来た。

- ・介護職員等医療的ケア研修の指導を行った。

9. 防災委員会

活動目標（目的）

- ・あすなろ・ぼっかぼっかの家における防災計画及び訓練の実施。

〔実績・反省事項〕

- ・年2回の避難訓練を実施し、避難経路の再確認ができた。また、岩手ノーミに消火器の使い方を説明してもらい、初期消火の必要性を教授してもらった。

10. 行事委員会

活動目標（目的）

- ・季節ごとの行事を行う事はもちろんの事、ご入居者の生きがい作りを行う。

〔実績・反省事項〕

- ・敬老会、収穫祭、運動、忘年会/餅つきの大きな行事や、お花見、ひな祭りなどの季節ごとの行事を実施できた。しかし、コロナウイルス感染症対策のため、ご家族や地域の方を招くことができなかったため、来年度はご家族や地域の方を招いてご入居者に楽しんでもらいたい。

11. 苦情解決委員会

活動目標（目的）

- ・円滑かつ迅速に苦情に対応することで、個人の権利擁護を図るとともに、サービスの適切な支援をする。

〔実績・反省事項〕

- ・ご入居者及び、ご家族からの苦情はなかった。今後も関係性を維持していきたい。
- ・金ヶ崎町介護相談員の毎月1度の訪問が再開された。

12. 入居判定委員会

活動目標（目的）

- ・入居判定課程の透明性、公平性を確保するとともに、入居の必要性の高い申込者が円滑に入居できること。

〔実績・反省事項〕

- ・判定会議の際に、待機者の中から優先順位の高い申込者から順番に選定し、委員会で必要性の高い申込者を入居決定とした。決定後はご家族と連携し、迅速かつ円滑に入居の運びができた。

13. 研修委員会

活動目標（目的）

- ・法人にとっての人財となるべく「自らの力量を高める」こと。

〔実績・反省事項〕

- ・年間施設内研修（法定研修含む）を日程どおり実施することができ、職員の知識を高めることができた。来年度は、外部講師にも依頼し研修内容を充実させ職員一人一人のスキルアップに繋げるよう取り組んでいく。

V. 地域密着型特別養護老人ホームすずの里の取り組み課題に対する反省

- (1) 令和5年度 平均稼働率
特養 98.9 % ショートステイ 94.2%
- (2) 令和6年度3月末現在の入居状況(特養定員29名 ショートステイ10名)
男性 8名 女性 21名 計 29名
男性 3名 女性 7名 計 10名
- (3) 特養入居人数 4名 退所人数 4名
- (4) 平均介護度 特養 4.0 ショートステイ 2.5

目標1 入居者の尊厳ある生活を保障するため、ユニットケア(個別ケア)の理解と実践を通し、サービスの質の向上や環境改善に取り組みます。

〔実績・反省事項〕

来年度、ユニットリーダー研修実地研修施設を目指すにあたり、(一社)日本ユニットケア推進センター主催の「実地研修施設を目指すためのじっくりサポート研修」を施設長、介護職員、ユニットリーダー、他職種で受講し、ユニットケアについての理解を深め、実践した。

新型コロナウイルスが5類となり、感染対策及び感染状況を見ながらではあるが、ご家族様とのお部屋での面会を再開した。それとともに、少しずつではあるが、ボランティアの受け入れも再開した。家族懇談会の開催や、アンケートの実施からは、おおむね好評を得ている。

年度途中、学生の実習受け入れを開始した。採用につながることもあり、できるだけ受け入れていく方針。

目標2 コロナ情勢を鑑み、地域包括ケアの担い手、地域住民の一員として、地域住民と関係機関と連携を図り、地域課題への活動を積極的に行います。地域の方が参加でき、ともに活動できる場を提供します。

〔実績・反省事項〕

前項で述べたように、少しずつではあるが、ボランティアの受け入れも再開した。

北上市社会福祉法人連絡会に所属しており、市内の社会福祉法人とともに地域課題へ取り組んでいく。

目標3 基本理念に基づいた職員像、業務の標準化、職員教育及び研修プログラムの確立により、職員が仕事を通じて成長と達成を実感できる職場環境を目指します。法人職員として意識の統一と自己成長につなげる職員教育を実施します。

〔実績・反省事項〕

施設内 OFF-JT

4月 理念塾・倫理・法令遵守・接遇

5月 新任研修

食中毒予防研修

6月 個別ケア(ユニットケア)

7月 24シート・記録

- 8月 リスクマネジメント・身体拘束廃止研修
- 9月 虐待防止（アンガーマネジメント）研修
- 10月 認知症研修
- 11月 排泄ケア・ポジショニング研修
感染症研修
- 12月 虐待防止研修
- 1月 看取り・健康管理・緊急時の対応
- 2月 認知症研修
- 3月 リスクマネジメント・身体拘束廃止研修
新任研修

施設外 OFF-JT

- 9月 いわてユニットケア研究会 研修会（集合）
- 11月 ユニットケア東北ブロック フォローアップ研修（集合）
ユニットリーダー研修（集合）
ユニットケア看護師研修(zoom)
- 12月 いわてユニットケア研究会 研修会(zoom)

施設内 OFF-JT は、例年通り実施できた。施設外研修に関しても、集合、zoom 問わず参加できた。24シートやOJT チェックリストによる職員教育や、職員手帳を使った研修を実施できた。人事管理システムを導入したものの、考課制度の内容を整備できず休止状態となってしまった。考課制度の見直しと内容の精査が今後の課題。

目標4 コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント体制を運用することで入居者や職員が安心・安全の中で暮らし、働ける環境を目指します。

〔実績・反省事項〕

ヒヤリハット、発見シート等を分析し、入居者一人ひとりのリスクマネジメントを強化している。しかし、ショートステイ利用者が転倒し骨折する事故が起きてしまった。今後も、検討しリスクを回避できるよう取り組みたい。職員に関しては大きな事故もなく就業することができた。職員に関しても、ヒヤリハット等を出してもらい、リスク回避につなげたい。

新型コロナウイルスが5類となったが、県内でも時折クラスターが発生している中で、延べ3名の感染者は出たものの、コロナ禍においてクラスターになることなく安全に過ごすことができた。

※ 各ユニットの年間目標に対する実績と反省（評価）

せおとユニット

【年間目標】 充実と安心を感じられるユニット作り

〔実績・反省事項〕

「ユニットケア（個別ケア）の理解と実践」について

入居者の意向について再度聞き取りを実施し、24シートが充実するように努めていた。

内容については、まだまだ不足している部分も見られるため今後も継続した取り組みが必要と

考えている。

生活環境の整備として、リビングにおけるテーブル調整や椅子及び車椅子の高さ調整を実施していた。それに合わせて食事の席も変更し、入居者個々に過ごしやすい環境が確保されるように努めた。

食事関連について、より家庭的な食卓を提供するため、配膳方法については当然周知し実施するようにしていたが、加えて職員が一緒にテーブルで食事を摂るように取り組みをした。開始直後は入居者にも戸惑いは見られたが現在は定着している。

前年末に、家族様に呼びかけた大掃除・懇親会には多くの参加をいただき交流を深めることができた。以降、日常的な関わりでも家族とのコミュニケーションがスムーズになったように感じている。

実地研修施設「じっくりコース」に参加することで、ユニット職員に設えに対する意識が芽生えたように思う。ユニット全般の設えを整備するきっかけにもなり、今後もより「家」らしい設えを目指していこうと考えている。

「チームケア」について

ユニットリーダーの変更など、ユニット職員にとっても大きな変化があったので職員の関係性を深めるように努めた。ユニット職員個々の得意な部分を把握し接することで良好な関係性を築けたように思う。

人員の急な不足など予想外のトラブルには見舞われたが、そのおかげもあって自然と互いをフォローする関係性を構築できたように思う。職員からの発言も増え、その時々に合わせて、短時間でもユニット職員間の協議がなされている状況であった。

あずみユニット

【年間目標】 明るく、楽しく、入居者も職員も居心地のいいユニットづくり

【実績・反省事項】

・「ユニットケア(個別ケア)の理解と実践」について、24シートの作成・活用に関しては、前年度よりも内容が濃いものが出来たと思う。年度の前半に入居者全員の排泄データを取り、24シートに反映することができた。過ごしやすい環境を考え、リビングや談話コーナーの設えを検討した。

・「チームケア」については、毎日の挨拶を基本としてお互いにフォローしあえる関係づくりを重視しながら取り組んでいった。また、職場環境の整理整頓や報告・連絡・相談を心掛けていくように周知し、実施した。

【実績・反省事項】

・「ユニットケア(個別ケア)の理解と実践」について、食事の盛り付けや一日の記録など、実践的な部分は取り組むことができた。排泄データも年度の前半に取ったものを、個別に検討して再度データを取る方、そのままの方と分ける事が出来た。

・「チームケア」については、各々の気付きを積極的に声に出して、ユニット職員皆でどうすれば改善できるかを考えて実行に移すことができた。職員が一時的な体調不良で休んだりすることはあったが、おおむね自身の体調管理はできていた。

しみずユニット

【年間目標】一人ひとりが暮らしを楽しめるユニットをつくる

〔実績・反省事項〕

「ユニットケア(個別ケア)の理解と実践」

- ・24シート作成の手順が理解出来ていたため、内容の充実を図る事に重点を置いて取り組み始め、各担当の24シートを全員が完成させる事が出来た。期限を設けてシートの見直しや修正を行ったことで、スタッフ同士が意見交換したり、情報収集し合ったり、一緒に取り組んでいるという意識の中で、方向性を共有出来ていた。その中で、スタッフ個人の主観だけでなく、他スタッフの客観的な意見や情報を取り入れ、ケアの詳細が分かりやすく、統一性のあるシートをそれぞれが作成できたことで、支援の偏りが減り、スタッフの自信につながり、日々のケアにも活かされ、入居者の安心感にもつながっていた。
- ・日々の記録が定型文の使用が多くなっていた部分も、その時々様子を文章で入力する癖が少しずつ付いてきて、変化がわかりやすい記録が増えていった。
- ・24シートの内容が充実した事で、支援方法に偏りが少なくなっていた。また、支援方法の変更点等は、その都度シートも変更する事が出来ていたため、確認がとりやすく、浸透も早かった。
- ・入居者の意向や気持ちの変化、要望に対しての働きかけも、返答だけでなく表情の変化や様子、会話の内容から汲み取ろうとする意識や、要望に沿えなくても傾聴したり一緒に過ごす時間を取ったりと、それぞれが入居者と関わる時間を設ける事が出来ていた。その中で、入居者の役割を考え、出来る事を行ってもらえる時に、お願いし勧める事も出来てきた。
- ・記録の取り方にはまだ課題が残っているが、入居者の暮らしの変化がわかる記録の取り方が定着するように来年度も継続して取り組んでいきたい。

「チームケア」

- ・スタッフそれぞれが話しやすい雰囲気を意識し、笑顔で顔を見て挨拶をする事や、手を止めて話を聞くようにする等を心掛けて取り組むことができ、スタッフ間のコミュニケーションを増やす事が出来た。その中で、業務の確認や情報共有が密になり、自分と違う考え方に対して慎重に考える姿勢を持ったり、受け入れながらも自分の意見をしっかりと伝えたりする姿もあり、結果として助け合える関係性を築く事が出来た。
- ・業務のペースがスタッフ毎に差が出てしまう部分もあったが、自分が何をするのか、何をしたいのかを各々で伝え合うように努めた。
- ・感謝の言葉を自然と伝え合う事が出来るようになり、ユニット内の雰囲気も明るく、スタッフ間でも声を掛け合いやすい環境が出来た。声を掛け合い、確認し合う事で業務の重複や支援以外の業務が滞っている部分に気付くことができ、業務の効率が上がった。
- ・その場だけの話し合いにならないように、ノートを作成して全スタッフで共有できるようにしたことで、業務の確認も取りやすくなった。
- ・相手を思いやった行動が行き過ぎて、職員都合の極端な先取りケアになってしまった部分があり、認識の違いを指摘し、修正した時があった。スタッフ同士の慣れ合いから支援に影響が出てしまった部分は、今後もスタッフの意識を保っていきたい。

せりだユニット

【年間目標】 その人らしい暮らしの実現と安心した暮らしを送る

〔実績・反省事項〕

「ユニットケア(個別ケア)の理解と実践」について

- ・話し掛ける時は、しっかり椅子に座って話をする事が一人ひとり出来ていた。ソファで過ごしている時も隣に座って入居者と視線を合わせて会話をする事が出来ていた。
- ・盛り付けをする時は、意識して好みや嗜好を聞き出し、その都度量を聞きながら提供することができていた。職員が手薄でも意識をして取り組む事が出来た。
- ・入浴時や散歩に出かけた時やソファに座りながら入居者との時間を作ることで、思いやこだわりを聞き出すことができた。楽しみを見つけ買い物に出かけたり、ドライブしたり、オヤツ作り等に繋げる事が出来た。
- ・知り得た情報を記録に残すことはできた。自分で時間を作り 24Hシートを作成することができたが、全体の情報共有の仕方にバラつきがあったので、修正していく必要がある。
- ・食事の時、車椅子から足を降ろす事、椅子に移ることができる方は椅子に座って食事をする事が出来た。
- ・ベッドに高さ、車椅子の大きさ、テーブルの高さはその都度入居者に合わせて確認をする事が出来た。居室担当者が入居者の居室の環境を整える事が出来た。
- ・寝っぱなし起きっぱなしにならないよう入居者の意向を聞きながらメリハリのある生活を心がけることが出来た。分からない事は、相談員や医務に相談しながら暮らしの継続を考える事が出来た。

「チームケア」

- ・自分に任せられた仕事はできた。職員同士で相談し合い無理なく業務を分担して行う事が出来た。
- ・職員の良い所探しは行うよう意識が出来た。自分と違う意見や考えは理解できない事もあったが、相手の意見を尊重することで理解できることも多かった。
- ・挨拶は当たり前なので、自分の機嫌に関係なく行なう事が出来た。
- ・声のトーンや顔に出る事もあったので、ユニットミーティング時に、再度目標を掲げ、意識し指摘し合い、しっかり挨拶を行なう事が出来た。
- ・自分と違う考えに対して不満を言うよりも相談しながら人の考えを理解するよう心掛けることができた。
- ・皆、価値観は違うと言う事を理解して言えると、ぶつかることもなく意見を出し合って相談し合えるようになった。
- ・相手に対して不快な態度や雰囲気が見られた時は、ユニットミーティングで注意を促し責めるような言い方や態度の改善が出来た。

※ 各職種の年間目標に対する実績と反省（評価）

1. 介護主任

「重点目標」

- ・個別ケアの指導と実践「支援の質」のこだわり
- ・職員の思い、考え、行動力を大切にする

〔実績・反省事項〕

- ・来年度、ユニットリーダー実地研修施設へ応募するにあたり、職員育成にはユニットケアの考え方を直接ユニットに出向き日々指導することができた。特に、新採用の職員については、専門用語などは使用せずに知識・技術レベルに合わせた説明指導を意識し、成果としては3ヵ月経過した時点で変則勤務が可能となった。
- ・施設支援方針の浸透や施設内研修は、充実したものとなり職員の知識と質の向上に繋がった。3つの柱ユニット支援方針はユニットミーティング時に復唱するなどし、職員の意識が高まった。
- ・施設マニュアルについては、現行の状態では根拠が不明確、見て分かりにくい箇所があるので継続して整備を勧めていく。
- ・入居者と家族との信頼関係作りは、面会時などに笑顔で明るい声で積極的にした挨拶や、入居者の暮らしぶりなどを積極的に話し関係作りに努め、施設評価の向上にも繋がった。
- ・今年度通して意識したことは、職員がいつでも気楽に話せる雰囲気を作り、職員の意見や思いをリアルタイムで聞き入れ、職員が楽しく安心してチームワークを大切にしながら入居者の支援ができるように努めた。

2. 生活相談員・介護支援専門員

生活相談員

「 重点目標 」

- ・ その人らしい暮らしをサポートしていくことをスタッフと一緒に確認しながら実践し、入居者と本人の満足感が得られるようにする
- ・ 地域の方に「すずの里」での暮らしをアピールし、つながりを深める

〔実績・反省事項〕

- ・入居者が個々のリズムで暮らせるように、様子を観察し、対話を大切にしながら意向把握に努めた。その結果、施設の支援方針にもある「ここでよかった」という声が多く聞かれた。
- ・家族へのアンケート結果からは、大変良い評価をもらった。各項目とも5段階評価の4、5以上あり、日々の支援に対して概ね満足していることが分かった。
- ・地域に対しては、年3回の広報誌を発行し回覧してもらっている。施設内での暮らしぶりを知ってもらうことにはつながっているが、まだまだ足りないので今後更なるアピールを続けていく予定。次年度は、SNS等の利用をすすめ、「すずの里」の魅力を多く発信していく。
- ・市内の居宅支援事業所のケアマネジャーからの評価は良好。入居申し込みに来る多くがケアマネジャーから勧められたとの声がある。また、申し込みに来る家族からも「知人からすずの里が良いと聞き、申し込みに来た。」という話を多くもらったので、良いケアができていているというアピールは出来ていると思われる。
- ・家族とのつながりでは、家族懇談会の開催ができた。施設開所時点からコロナ禍だったため、家族と一同に集う機会を持てずいたが、やっと開催することができ、施設方針や日頃の様子など詳しく話をした。暮らしの様子をまとめたスライドショーを見ながら涙ぐむ家族の姿も多くあった。
- ・地域とのつながりの充実は、次年度への課題となっている。地域密着型施設の強みを生かして、地域の活動に参加する機会を持っていくようにしたいと考えている。

介護支援専門員

「重点目標」

- ・ 入居者のそれまでの暮らしを理解し、すすの里で快適に生活できる環境作りと家にいるような暮らし方を実現するサポートができる

〔実績・反省事項〕

介護職員、看護師、管理栄養士、相談員からの情報をまとめ、面会などの来所時や電話等でご家族の意向を定期的に確認し入居者一人一人が安心して暮らせるようケアプランの作成に取り組んだ。

今年度、ケアマネ更新研修を滞りなく終了することができた。事例を通し研修の参加者と話をしたことは今後の実践に繋げていけるものとなった。

地域資源をもっと活用し入居者の暮らしの豊かさがさらに増し増しになっていくよう取り組みを続けたい。

3. 看護師

「重点目標」

- ・ 入居者個々が安定した状態で過ごせるように体調を管理する。
- ・ 入居者やご家族の意思を尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援する。
- ・ 施設における観戦防止に努める。

〔実績・反省事項〕

・ 日替わりで担当ユニット決めて業務を行うことにより、処置時間が短縮でき、状態観察やコミュニケーションの時間にあてることができた。

・ 入居者とのコミュニケーションを1日1回全員と行うことは難しかったが、リビングで過ごしている方には声を掛けることができた。

・ レクリエーションやサークル活動への参加は数回程度で終わってしまったため、来年度の課題とした。

・ 他職種との情報交換は、ユニットミーティングや日々のラウンドで実施できている。

・ 家族との信頼関係については、こまめに連絡するように心がけている。看取りの時期の説明については、真意が思うように伝わらないことがあったため、ご家族がどこまで理解しているか、どのように理解しているか確認が必要であると感じた。

・ 今年度は、新型コロナウイルス感染3名、インフルエンザウイルス感染1名だった。クラスター発生することはなく終息できたのは、感染対策が十分に実施できていたためと思われる。今回の経験を基にマニュアルの見直しを行なっていきたい。

※ 各委員会

1・安全対策検討委員会（事故防止 リスク） 身体拘束廃止委員会

活動目標（目的）

- ・ ヒヤリハットから事故へ繋がる気付き意識を持ち、施設全職員で事故防止への意識統一を図り、安全な暮らしのサポートに努める。

- ・身体拘束ゼロに向け施設全体で取り組む

〔実績・反省事項〕

- ・再発予防策を具体的に出すという年度目標を掲げて始めたが、事例に対しての細かな分析ができず、全体的に具体的な案や対応例を示す事ができなかった。重大事故や難しい事例に関しては、委員会において検討分析しユニット内でも話し合ってもらい再発防止に努めた。
- ・ヒヤリハットの件数が少ないとの事で様式の変更を実施した。提出する際の手間や記入時間を省略できた点は良かったが、前提であった件数の増加には繋がらなかった。

2・食事支援委員会

活動目標（目的）

- ・美味しく食べて頂く為の機能維持、向上を目指し、口腔・嚥下に関する知識取得や口腔・嚥下機能維持、向上を多職種と連携しながら取り組む
- ・食べたいものを美味しく提供する

〔実績・反省事項〕

- ・口腔・嚥下に関する知識の習得は口腔・嚥下に関する研修の参加、研修で学んだことの確認を行い、個人の意向や嚥下機能に合わせた対応ができるよう取り組んだ。できるだけ食べたいものが提供できるよう、嚥下機能に配慮し食形態を工夫して提供し他職種で検証することを繰り返し行った。
- ・各ユニットでは季節が感じられるよう季節の行事食や旬の野菜や果物を使った行事食、手作りおやつなど工夫を凝らし喜ばれた。またユニット合同のお楽しみランチは毎月、2種類のメイン料理から選んでもらい提供した。

3・排泄委員会 褥瘡委員会

活動目標（目的）

- ・オムツ弄りへのアプローチの仕方や取り組みを共有し検討する
- ・トイレで排便ができる環境作りと支援方法を検討する

〔実績・反省事項〕

- ・環境整備として、各ユニットの汚物室や保管倉庫を視察し整理整頓されているユニットを参考にし、清潔感が感じられるように取り組むことができた。
- ・オムツとパットの装着の仕方については、委員会で確認し合い、各ユニットミーティング内で勉強会を開催するなどして、入居者が快適に過ごせるよう意識を高めることができた。
- ・排便管理に関しては、薬だけに頼らず腸内環境を整えるために、オリゴ糖やオリーブオイルなど使用し自然排便への取り組みを行ったが、短期間での明確な効果が確認されず、今後も長期間で取り組みを継続していく。

4・24シート、記録員会

活動目標（目的）

- ・ケース記録の充実(見て分かる経過の記録)
- ・多職種と連携し活用できる24シート作成
- ・個別ケアの基本知識を理解する

〔実績・反省事項〕

- ・24シート作成・記録については、勉強会を開催し、学ぶ機会を設け、ユニットミーティング内で作成方法や記録についての細かい指導を行った。記録システムは、初期状態のままの活用で不便さを感じていたが、年度始めよりは入居者の暮らしぶりが分かる記録となった。
- ・個別ケアの知識については、施設内研修を通して職員への理解度を深め、日頃から各ユニットへ足を運び入居者の暮らしが充実しているか把握し、改善が必要な点は委員会、リーダー会議、ユニットミーティングで検討し改善に努めた。

5・感染対策委員会 看取り委員会

活動目標（目的）

- ・感染症マニュアルの整備
- ・入居者と職員の感染対策と予防に努める。

〔実績・反省事項〕

- ・委員会開催については、不定期な開催になり充実した運営は出来なかった。実際には、感染症（コロナ・インフル）が発生した場合には、現行の感染マニュアルを基に備品準備や感染者にしっかり対応できクラスター感染を防ぐことができた。また、日頃からの手洗い、手指消毒の感染対策においては、職員へ意識づけをすることができた。
- ・看取りに関しては、家族の意向を大切に本人が最期を迎えるにあたり安心できるように家族への説明や日々の様子を面会時などに報告し、最期を迎えた際にはユニットミーティングで他職種を交え、振り返りをその都度実施することができた。

6・入居判定委員会

活動目標（目的）

- ・入居判定過程の透明性、公平性を確保するとともに、入居の必要性の高い申込者が円滑に入居できること

〔実績・反省事項〕

- ・待機者がいる中でも、新規申し込み者の方々についても丁寧な説明と申し込み者の状況の把握を慎重に行った。また、入居判定は必ず多職種を交え公平な判定で入居決定を行った。

7・研修委員会

活動目標（目的）

- ・法人にとっての人財となるべく「自信の質の向上と知識を高める」こと

〔実績・反省事項〕

- ・年間施設内研修（法定研修含む）を日程どおり実施することができ、職員の知識を高めることができた。また、外部講師による研修も3回開催し緊張感のある有意義な研修となり、参加率も良く、職員の学びと質の向上に繋げることができた。

8・防災委員会

活動目標（目的）

- ・施設における避難方法を理解し入居者の安全を保障するためにも、日頃の訓練を通じて

非常口の場所・避難方法・防災設備を確認しつつ、防火及び防災と避難時の呼びかけ、緊急時及び防災に対する職員の対応強化を図る。

〔実績・反省事項〕

- 日常点検や自主点検を継続して実施し、年2回の避難訓練を行うことで、防災意識を高めることができた。防災機器の操作に関しては不安な職員もみられていたので、今後も定期的に訓練と教育を実施していく。